

平成28（2016）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育B	科目ナンバリング	C3022S◆○002
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

音楽教育Bでは、器楽合奏で使う打楽器や鍵盤楽器などの奏法や、保育現場での活用法を学習します。また、合奏を通し、合奏指導法や、指揮法も学びます。

《テキスト》

『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育の歌12か月』  
(新星出版社)

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- 楽器の基本的な知識及び奏法を理解し、演奏することができる。
- 楽器を使った音遊び、アンサンブル、合奏指導ができる。
- 保育者自身の音楽表現力及び実践力を向上させる。

《授業時間外学習》

授業で取り扱った曲は、各自復習しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70%  
平常点(授業中に指示する課題)30%  
試験後解説を行い、達成度を確認する

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業の前後の挨拶を徹底します。15回のうち1回を学生コンサートに振替え、授業内容の順番を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	拍・リズムパターン	基本のリズム打ち・8ビート・ワルツ・チャチャチャ・サンバのリズム
2	リズム楽器①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(カスタネット・鈴・タンブリン)
3	リズム楽器②	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(トライアングル)
4	リズム楽器③ 合奏①	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法(ギロ・ウッドブロック・マラカス) 合奏練習①
5	打楽器① 合奏②	打楽器の奏法(小太鼓・大太鼓・シンバル) 合奏練習②
6	打楽器② 合奏③	打楽器の奏法(木琴・鉄琴・グロッケン) 合奏練習③
7	鍵盤楽器① 合奏④	鍵盤ハーモニカの指導法 合奏練習④
8	指揮法 合奏⑤	2・3・4拍子の指揮法 合奏練習⑤
9	曲の構成 合奏⑥	曲の構成や形式 合奏練習⑥
10	合曲想を生かした表現 合奏⑦	合奏における、曲想を生かした表現方法 合奏練習⑦
11	合奏発表	練習した曲を発表
12	編曲・アンサンブル①	子どもの歌をリズム合奏曲に編曲
13	編曲・アンサンブル②	編曲した曲をグループで発表
14	まとめ	理解度の確認
15	まとめ 日本の伝統楽器	学習内容の定着 和太鼓を使ったリズム遊び

《学科教育科目》

科目名	器楽B	科目ナンバリング	C3021S◆〇006
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、井上 綾乃、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

「器楽A」に引き続き、個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせを行い、保育現場における音楽活動の基礎技能をさらに高めます。個人レッスンではピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

器楽Aと同じ  
 ピアノが上達した場合は、バイエル→ブルグミュラー→ソナチネと進む（担当教員の指示を受けること）

《参考図書》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）  
 『ブルグミュラー25の練習曲集』（全音楽譜出版社）  
 『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- ブルグミュラー程度以上の楽曲が弾けるようになる。
- 弾き歌いの伴奏が余裕を持ってできるようになる。
- 表現豊かな歌唱ができるようになる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多く作る。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき点数化します。「器楽B」はグレード5を合格しないと単位が出ません。\*授業時間外に別途に実施されるグレード試験も、必要に応じて任意で受けること。結果はコメントを付して返却します。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、グレード制の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C3021SG G007
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>		

《授業の概要》

子どもの成長において造形遊びは重要な役割を担っているといえます。子どもの創造力は遊びを通して育まれます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生が作品制作を楽しみながら、自身の得意な領域を発見できることをめざします。

《授業の到達目標》

子どもの心の動きを感じ取りながら、造形遊びを楽しいものとして伝えることができる。子どもの作品に魅力を見いだすことができる。作品を制作するそれぞれの子ども達に対し、適切な言葉をかけることができる。造形遊びのための材料や用具をよく知り、正しく使うことができる。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。  
○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業内容に応じて紹介します。

《授業時間外学習》

・描写のための画材や色面構成に使用する雑誌等、事前に連絡のあった準備物は時間外に調査・購入すること。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。  
・課題提出が遅れそうな場合は、担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教員の自己紹介 授業計画の説明	担当教員の作品制作活動と造形に対する考え方を知り、これからの授業計画を理解する。
2	描写ー1（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と効果を体験する。
3	描写ー2（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と水彩絵の具の効果を体験する。
4	描写ー3（立方体）	シルクスクリーンで立方体の展開図を刷り、組み立てた後、鉛筆でデッサンする。立体描写・遠近法の考え方を理解する。
5	描写ー4（立方体）	画面構成と線・面の捉え方を理解し、描く事を体験する。
6	描写ー5（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
7	描写ー6（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
8	描写ー7（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
9	描写ー8（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
10	色彩の知識	テキストを使い説明を受けた後、カラーペーパーを貼り、色彩の基礎的な知識を理解する。
11	色面構成ー1	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
12	色面構成ー2	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
13	色面構成ー3	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
14	色面構成ー4	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
15	色面構成作品集制作	作品集としてまとめ、表紙を作成し、提出する。作品集として残す意味を理解する。

《学科教育科目》

科目名	造形A	科目ナンバリング	C3021SG G007
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特にない

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	クロッキー	短時間に 線だけで人物の動きを表現することができる。
3	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
4	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
5	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
6	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
7	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
8	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
9	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
10	色彩指導	色彩の三属性（色相・明度・彩度）を理解し、色彩についての科学的な知識を身につける。
11	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
12	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
13	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
14	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
15	子供の絵の見方	実際の子供の絵を鑑賞し、子供の感性をのびのびと伸ばすにはどのような助言が望ましいかを理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C3022S◆○008
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> <li>○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力</li> </ul>		

《授業の概要》

この演習では、造形の基礎から応用へと発展させる課題を設定し、受講生が作品制作を行うことによって、造形力と発想力を鍛えることを目標とします。さまざまな素材と技法を体験し、考え、試みることで、造形あそびへの興味と理解を深め、受講生がやがて保育の現場に役立てることができる経験となる授業をめざします。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業の必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

自然や日常生活のなかに造形のヒントを探し出す視点が持てる。子どもの発達段階に応じた造形遊びの計画を立てることができ、その場に必要材料・用具を準備することができる。子どもの成長と造形遊びに関連する情報収集を自主的に行うことができる。

《授業時間外学習》

・各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行います。作品制作のための準備物や資料等は時間外に調査・購入すること。

《成績評価の方法》

○評価方法については提出作品（100％）で成績評価を行います。  
○提出された作品への批評とアドバイスを、適宜授業のなかで全体と個別の両方で行います。

《備考》

・授業終了後の片付けは、指示に従い各自が丁寧にすること。  
・課題提出が遅れそうな場合は担当教員に申し出ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業計画説明	授業計画と目標を理解する。
2	変身！被り物制作ー1	キャラクターを作り出すために、イメージを段階的に形にする方法を理解する。
3	変身！被り物制作ー2	さまざまな素材を使い、被り物制作を計画し、実行することができる。
4	変身！被り物制作ー3	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
5	変身！被り物制作ー4	さまざまな素材を使い、被り物を制作することができる。
6	変身！被り物制作ー5	完成した作品を作者が被り、演じる場面を写真に撮影し、制作の意図と効果を説明することができる。
7	立体作品制作ー1	設定されたテーマに添って、作品制作の意味と目的を理解し、制作の計画を立てることができる。イメージからラフスケッチを作成し、プランを絞り込むことができる。
8	立体作品制作ー2	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
9	立体作品制作ー3	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
10	立体作品制作ー4	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
11	立体作品制作ー5	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
12	立体作品制作ー6	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
13	立体作品制作ー7	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
14	作品撮影と展示効果の説明	完成作品を写真撮影し、作品の展示効果について理解することができる。
15	作品提出とまとめ	すべての作品を提出する。園における造形についての考え方と役割について、理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形B	科目ナンバリング	C3022S◆○008
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

- ・ 作品評価（100%）
- ・ 作品制作の中で、個別に作品評価し助言を行う。

《備考》

特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	影絵アイデアスケッチ	楽しい影絵劇の上演を目指してグループ分けをし、題材・制作分担等を話し合うことができる。
2	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
3	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
4	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
5	影絵制作	カッターナイフの正しい使い方を知り、グループの計画に従って登場人物等を制作することができる。
6	影絵上演	分担を決め、楽しい影絵を上演することができる。
7	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
8	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
9	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
10	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
11	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
12	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。
13	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。
14	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。
15	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に、個性豊かな壁画を制作することができる。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育A	科目ナンバリング	C3021SG G009
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

運動技能の発達が心身へもたらす影響について理解し、保育における運動遊びの意義を学ぶ。子どもたちが主体的に運動に取り組むことのできる環境や支援のあり方について考える。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ・ 幼児期における身体活動、運動遊びの意義を理解する。
- ・ 基本的な運動技能を身につける。
- ・ 運動遊びの方法を体得し、実践上の留意点について考えることができる。

《授業時間外学習》

授業内容を再確認し、ノートにまとめる。ボランティアに参加するなどして、子どもの興味や動きの特徴について日ごろから観察する習慣をつける。

《成績評価の方法》

受講態度45%、提出物35%、発表20%。  
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加する。体育館シューズ忘れは欠席と同等の減点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意。幼児の発育発達の特徴と運動遊びとの関係について理解する。
2	からだ気づき	色々な体の使い方を体験し、自分の身体についての認知を深める。
3	パディを組んで遊ぶ	2人組で競争したり協力したりして遊ぶ。
4	仲間づくりの遊び	自然と仲間と仲良くなれる遊び。
5	仲間と協力して遊ぶ	複数人で力を合わせて遊ぶ。
6	縄を使った遊び	縄を使った遊びを行う。縄の使い方を考える。
7	フラフープを使った遊び	フラフープを使って遊ぶ。使い方を考える。
8	季節の遊び	季節をモチーフにした遊びの方法と意義について考える。
9	伝承遊び	昔から行われている遊びの方法と意義について考える。
10	ボールを使った遊び	投げる遊び。ボール遊びの種類と技能の発達過程について理解する。
11	新聞を使った遊び	新聞紙を使って遊ぶ。新聞紙を利用した遊びを考える。
12	運動遊びの計画	グループごとに新しい運動遊びを考案する。実践計画を立てる。
13	遊びの発表	考案した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。
14	遊びの発表	考案した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。
15	遊びの発表とまとめ	運動遊びにおける援助や展開の方法に関する理解について確認する。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育B	科目ナンバリング	C3022S◆●010
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

運動技能の発達が心身へもたらす影響について理解し、保育における運動遊びの意義を学ぶ。  
子どもたちが主体的に運動に取り組むことのできる環境や支援のあり方について考える。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- ・ 幼児期における身体活動、運動遊びの意義を理解する。
- ・ 基本的な運動技能を身につける。
- ・ 運動遊びの方法を体得し、実践上の留意点について考えることができる。

《授業時間外学習》

授業内容を再確認し、ノートにまとめる。ボランティアに参加するなどして、子どもの興味や動きの特徴について日ごろから観察する習慣をつける。

《成績評価の方法》

受講態度45%、提出物35%、発表20%。  
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加する。体育館シューズ忘れは欠席と同等の減点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意。
2	運動能力調査	幼児の運動能力調査の測定方法と実施における注意事項について理解する。
3	体操・バランス遊び	1人技を体得する。
4	体操・バランス遊び	2人技を体得する。
5	体操・バランス遊び	複数人で力を合わせて体操演技をする。
6	体操演技を創作する	技を組み合わせ作品をつくる。
7	体操演技の発表	体操演技の作品をつくり発表する。
8	パラバルーンを使った遊び	パラバルーンの使い方について知り、遊び方を考える。
9	サーキット遊び	色々な動きを連続して行う遊ぶ方法について知る。サーキットのコースを考える。
10	ニュースポーツ	ニュースポーツ概念について理解し、子どもができるニュースポーツを知る。
11	ニュースポーツ	幼児ができるニュースポーツの種類について知る。
12	おもちゃ作って遊ぼう	身近にある道具を使っておもちゃを作って遊ぶ。
13	おもちゃ作って遊ぼう	作ったおもちゃを発表する。
14	おもちゃの作り方と使い方のまとめ	考案した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。
15	遊びの発表とまとめ	運動遊びにおける援助や展開の方法に関する理解について確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 I B	科目ナンバリング	C3021S-●014
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

子どもの保健 I A で学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい病気・症状・事故についての理解を深めると共に、子どもの異変時に『子どもたちの命を守る』的確な判断と対応が行えるようになるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいように展開していく。また、施設などにおける乳幼児の健康と安全管理が理解できるようにする。

《授業の到達目標》

1. 乳幼児特有の病気・症状の理解ができ、その予防と対応方法及び事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、常に『危機管理』がのしかかっていることを理解することができる。  
 ・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴後に課すレポート（10%）：コメントして返却
- ・学期末テスト（90%）

《テキスト》

子どもの保健 I A で使用したテキストを使用するため購入不要  
 『子どもの保健 I 一心身の発達・健康と安全一』  
 山崎知克 編著（建帛社）2013年11月25日

《参考図書》

その都度紹介する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。  
 【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00~21:29】  
 乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。  
 ※番組テーマは、毎週異なる。

《備考》

園児たちに『命の大切さ』を教えてほしいと願う思いから、病気の授業では『難病に罹り死にゆく子ども』のビデオを視聴する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの病気の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とその病気の症状・対応について理解できる。
2	保育者のかかわり	病気をもった子ども・健康な子どもへの保育者の対応・役割が解るようになる。
3	学校において予防すべき伝染病	感染症と伝染病の定義が解り『学校において予防すべき伝染病』の感染症の種類と出席停止期間の基準がわかる。
4	子どもによくみられるアレルギー	子どもによくみられるアレルギー性の病気とアレルギーを起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
5	子どもによくみられる痙攣	子どもによくみられる痙攣の病気が解り、その対応と予防ができるようになる。
6	子どもによくみられるウイルス・細菌感染	子どもによくみられるウイルスによる感染症とウイルス・細菌による食中毒の病気が理解できて、現場でその対応・予防ができるようになる。
7	施設などでの衛生管理	施設などでのウイルス・細菌感染症の取り扱いが解り、二次感染を予防することの重要性が理解できる。
8	子どものさまざまな病気	子どもによくみられる骨・関節の病気・耳の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気・心臓の病気が解り、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの精神保健	乳幼児期によくみられやすい『こころ』の病気と発達障害が理解でき、その対応と予防、及び保育者へのかかわり方が解る。
10	VTR視聴による学習	子どもによくみられる小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTR視聴をし、その幼児の状態やおもいがわかるようになる。
11	保育現場での事故の種類	保育現場でのインシデント・アクシデント事例から、危険・事故防止・安全教育における保育者の役割が解る。
12	保育現場における事故防止・安全対策	子どもの発達段階ごとの事故の特徴とその種類が解り、子どもへの安全教育の重要性が理解でき、子どもに安全教育・指導ができるようになる。
13	子どもの救急処置①	保育所で起こった、けが・鼻出血・やけど・溺水・窒息を紹介しながら、それらの対応がわかる。
14	子どもの救急処置②	保育所で起こった熱中症の事例を紹介し、なぜ、熱中症が予防できなかったのか？をディスカッションし、熱中症の原因・症状・予防がわかる。
15	まとめ	『子どもの健康』が理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養 A	科目ナンバリング	C3021S-●016
担当者氏名	廣 陽子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> <li>○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル</li> </ul>		

《授業の概要》

子どもの食生活は、健全な心身の発育・発達をするため、また、正しい食習慣を確立するためにも大切である。子どもの食と栄養 A では、食物の栄養や摂取方法および調理方法を理解し、子どものみならず学生自身も正しい食生活を営むことができるようにする。それに加え、子どもや保護者への援助・指導できるように重点をおく。授業はテキストを中心に講義と演習、実習を交え学習を行う。

《授業の到達目標》

自身の健康維持をするための栄養の知識や食事摂取基準の概要及び食品の使用方法などの理解をし、これらの知識を踏まえ献立作成ができる。また、これらの知識を子どもの発育と発達にあわせて、「乳幼児期に適した食生活」として考えることができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業態度を含むグループ学習への協力と参加：20%
- (2) レポート・課題提出：20%（提出遅れは減点となる）
- (3) 試験：60%（試験は持ち込み不可とする）
- (4) フィードバックの内容・方法：学習のまとめの時間に難解なところを解説する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの食と栄養	「子どもの食と栄養」についての全体の学習内容や学習方法の概要を理解する。
2	子どもの健康と食生活	子どもの心身の健康や食生活について学習し、今後の学習をする意義について理解する。
3	体のしくみと栄養 (1)	食べ物が消化・吸収されるしくみや代謝を理解し、栄養の生理について学習する。
4	体のしくみと栄養 (2)	食欲のしくみについて理解し、「食べる」ことを考えることができる。
5	栄養素の働き (1)	栄養の考え方を理解し、糖質・たんぱく質の働きを学習する。
6	栄養素の働き (2)	脂質・ビタミン・無機質・水分の働きを学習する。
7	食事摂取基準と食品 (1)	どれだけの栄養素や食品を摂取すると健康を維持できるかを学習する。
8	食事摂取基準と食品 (2)	食事摂取基準と食品 (1) を踏まえ、食事バランスガイドを理解し活用する。
9	献立と調理 (1)	調理の基本を理解し、食品の組み合わせを考える。また、食の安全についても学習する。
10	献立と調理 (2)	食品の目安量を習得する。
11	献立と調理 (3)	献立と調理 (1) (2) で学習したことを踏まえ、献立作成を行う。
12	献立と調理 (4)	献立と調理 (3) で作成した献立を実際に調理し、その手順・技術を確認する。
13	子どもの発育・発達と食生活 (1)	子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
14	子どもの発育・発達と食生活 (2)	子どもの発育・発達から栄養状態の評価を客観的に評価する方法を理解する。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を理解し、自身の知見として習得されているか確認する。

《テキスト》

『新しい時代の保育者養成 子ども食と栄養』  
進藤容子編、あいり出版 2015

《参考図書》

五訂増補食品成分表2015 女子栄養大学出版 2017

《授業時間外学習》

多くの知見を覚える必要があるため、日頃から復習を大切に  
する。

《備考》

毎日の食事内容や食習慣を意識しながら、生活を送るように心がける。学習したことは、正しい食習慣に役立て、実践する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養B	科目ナンバリング	C3022S-●017
担当者氏名	廣 陽子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

子どもの食生活は、健全な心身の発育・発達をするため、また、正しい食習慣を確立するためにも大切である。子どもの食と栄養Bでは子どもの食と栄養Aで学んだ知識をいかしながら、各年齢での食事摂取や食生活を演習を通して学習し、「子どもの発達過程と食」についての具体的な知識と技術の習得をねらいとする。また、保育所・幼稚園での食育について考える。

《授業の到達目標》

「子どもの発達過程と食」についてのイメージがもて、栄養の知識を確実なものとする。また、具体的に幼児への食指導、食の援助ができるようになる。

《テキスト》

『新しい時代の保育者養成 子ども食と栄養』  
進藤容子編、あいり出版 2015

《参考図書》

『授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き』  
柳澤正義 監修、財団法人 母子衛生研究会、2008

『五訂増補食品成分表 2015』 女子栄養大学出版 2017

《授業時間外学習》

多くの知見を覚える必要があるため、日頃から復習を大切に  
する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業態度を含むグループ学習への協力と参加：20%
- (2) レポート・課題提出：20%（提出遅れは減点となる）
- (3) 試験：60%（試験は持ち込み不可とする）
- (4) フィードバックの内容・方法：学習のまとめの時間に難解なところを解説する

《備考》

普段から乳幼児への関心を持ち、特に食事や生活に興味をもつこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳児期の心身の発達と食生活 (1)	授乳の意義と食生活について理解する。また、妊婦や授乳婦の食生活についても学習する。
2	乳児期の心身の発達と食生活 (2)	離乳の意義と離乳方法について理解する。
3	乳児期の心身の発達と食生活 (3)	乳児期の心身の発達と食生活 (1) (2) で学習したことを踏まえ、実際に調乳をする。
4	幼児期の心身の発達と食生活 (1)	幼児期の食生活の特徴を理解し、食事の援助について学習する。
5	幼児期の心身の発達と食生活 (2)	幼児期の心身の発達と食生活 (1) を踏まえ、間食の献立作成を行う。
6	幼児期の心身の発達と食生活 (3)	幼児期の心身の発達と食生活 (2) で考えた幼児の間食を実際に調理する。
7	乳幼児期の問題と解決 (1)	幼稚園教諭・保育士として乳幼児期の食生活での問題と解決法について学習する。
8	乳幼児期の問題と解決 (2)	幼稚園教諭・保育士として乳幼児期の食生活での問題と解決法について学習する。また、保護者の悩みも考え、支援につなげる。
9	食育の基本と内容	家庭・幼稚園・保育所などでの乳幼児への食育の考え方・方法等を学習する。
10	食育の実際 (1)	食育の基本と内容で学習したことを踏まえ、食育活動の計画を作成する。
11	食育の実際 (2)	食育の実際 (1) で作成した食育活動計画を発表する。
12	食育の実際 (3)	食育の実際 (1) で作成した食育活動計画を発表する。
13	子どもの食事と栄養の実際	家庭・幼稚園・保育園・児童福祉施設での食事と栄養について学習する。
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーや疾病及び体調不良の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応を学習する。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を理解し、知見として得られているか再確認し、具体的に保育現場で応用できる。

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を身につける。見学観察実習事前授業では、学ぶべき課題を見つける。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。幼児理解をする。幼児の遊びを研究し、幼児が楽しむ保育を考える。見学観察実習の目的、意義を知り、現場で知識を得る。参加指導実習に向けて保育する力をつける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』授業で配布  
必要に応じプリントを配付する。

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

幼児を見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取る力をつける。環境構成、幼児の活動、教師の援助等の実習ノートの書き方を学び書くことができる。幼児へのかかわり方など保育技術を学ぶ。幼児の遊びを常に考え、共に楽しむ遊びは何か、それを保育内容としてそのように指導計画を立てるかを考え、作成する力を持つ。保育者としてのより良い資質を身につける。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで数多く絵本に接し、幼児の前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、幼児が楽しむものを制作し実習に役立てるように準備しておく。常に、ハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 20% 授業中の発表内容、態度 10%  
実習園の評価・実習ノート 70%  
・分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付け、授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次期の目標に反映させる。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退しない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の心得と観察実習の意義	教育実習の資格条件を理解し遵守する。見学観察実習の意義を知り、課題を持つ。
2	実習録の書き方	実習園の組織、園舎内外の環境、教育目標等の教育課程を学び、実習ノートに記入する。
3	実習録の書き方	一日の観察の記録をどのように書くか、観察のポイントが説明できる。幼児の活動と教師の援助の書き方を知り、記録の方法を説明する。
4	実習録の書き方	環境構成の書き方を学ぶ。幼児が活動しやすい環境について知る。使用する用具、教具、教材を学ぶ。
5	実習直前指導	実習中の心得、諸注意、配布物、持参するもの等リーダーが説明する。実習生の園での姿など、DVDを視聴し、具体的な行動、言葉の使い方を知る。
6	観察実習の反省と課題自己評価	見学観察実習の反省をし、自ら課題を見つけることができるグループで実習を振り返り、問題点を討議し、これからの学びに繋げる。
7	参加指導実習の目的と意義	参加指導実習の目的と意義について学び、部分実習、研究保育を検討する。
8	参加指導実習の心得と準備	参加指導実習においての実習生の心得と準備の検討を重ね、保育する立場として、何を身につけるか検討する。 DVD視聴
9	幼稚園教育課程 3歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、3歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する3歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
10	幼稚園教育課程 4歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、4歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する3歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
11	幼稚園教育課程 5歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、5歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する3歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
12	指導計画作成と実践相互学習①	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
13	指導計画作成と実践相互学習②	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
14	指導計画作成と実践相互学習③	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
15	相互学習の反省と課題	相互学習①～③で学んだこと、課題などをどのように参加指導実習の各自の部分保育、研究保育に活かすか、指導計画を作成し、説明する。

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を身につける。見学観察実習での経験を活かし、学ぶべき課題を見つける。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。幼児理解をする。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しみ、学ぶ保育内容を工夫と創造をする。教育的効果を考えながら指導計画が作成できるようにする。模擬保育をし、参加指導実習に向けて保育する力をつける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』  
必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

子どもを見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取る力をつける。環境構成、子どもの活動、教師の援助等の実習ノートの書き方を学び書くことができる。子どもの姿、活動から子どもの学びが保証できる、環境構成のあり方、教師の援助、教材準備の方法を学び、指導計画に繋げる事ができるようにする。積極的に模擬保育をし、保育する力を身に付け、保育者の資質の向上を図る。遊びのレパートリーを増やす。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで数多く絵本に接し子どもの前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、子どもが楽しむものを制作し実習に役立てるように準備をしておく。常にハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10%  
 授業中の発表内容、態度 20%  
 実習園の評価・実習ノート 70%  
 ・分からないところはオフィスアワー等で質問を受け付ける  
 ・授業の到達目標に対しては、次年度目標に反映させる。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退しない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	予備日	保育実習
2	予備日	保育実習
3	予備日	保育実習
4	予備日	保育実習
5	予備日	保育実習
6	予備日	保育実習
7	予備日	保育実習
8	予備日	保育実習
9	予備日	保育実習
10	予備日	保育実習
11	予備日	保育実習
12	参加指導実習の事前指導 指導計画の作成	6月、7月の子どもの遊びを考える。参加指導実習の目的と意義について説明ができる。各自の実習園で行う部分保育の指導計画を立て、ねらい、内容を説明する。
13	指導計画の作成・部分保育	6月、7月の子どもの遊びを考えて、部分保育の指導計画を立て、どのように保育を進めるか、時間配分、環境構成、子どもの活動、教師の援助など説明する。
14	指導計画の作成・部分保育	部分保育の指導計画を立て、どのように保育を進めるか、時間配分、環境構成、子どもの活動、教師の援助など説明する。(自分の保育の展開を考える)
15	指導計画の作成・部分保育	研究保育の指導計画を立て、教材準備、保育への導入などシミュレーションをして保育を進める方法を説明する。(保育の導入・展開・整理まとめの流れ)

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				2年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル			

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）。子ども理解（①子どもの観察とその記録、②個々の状態に応じた援助やかかわり）。養護内容・生活環境（①子どもの心身の状態に応じた対応、②健康管理、安全対策の理解）。計画と記録（①支援計画の理解と活用、②記録に基づく省察と自己評価）。専門職としての保育士の役割と倫理（①保育士の業務内容、②職員間の役割分担や連携、③保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について具体的に理解する。観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容をを踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

施設の評価表に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導 I」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル			

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）。子ども理解（①子どもの観察とその記録、②個々の状態に応じた援助やかかわり）。養護内容・生活環境（①子どもの心身の状態に応じた対応、②健康管理、安全対策の理解）。計画と記録（①支援計画の理解と活用、②記録に基づく省察と自己評価）。専門職としての保育士の役割と倫理（①保育士の業務内容、②職員間の役割分担や連携、③保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について具体的に理解する。観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容をを踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

施設の評価表に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅰ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で習得した知識・技術を再確認する。実習前には、実習課題を設定し、目的を明らかにして実習にのぞみ、実習後は実習の自己評価、他者評価をもとにして実習報告書を作成する。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社。  
そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。 ○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 ○実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し、習得できる。 ○実習終了後は、実習全体を振り返り、「実習報告書」を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出します。各自それによって自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）  
事後指導：報告書の作成（50%）

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習 I」（施設）の内容説明、評価基準・方法、使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全・疾病予防
2	実習施設の選定	・実習ノートの配布と内容説明 ・実習計画書の作成について ・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 1	視聴覚教材による学習 1
4	事前指導 2	視聴覚教材による学習 2
5	事前指導 3	書籍 専門雑誌による学習
6	事前指導 4	実習施設の特徴、具体的実習内容についての学習、実習計画書の書き方と提出方法
7	事前指導 5	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
8	事前指導 6	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習日誌の書き方・記録について
9	事前指導 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）、オリエンテーションの意義と諸注意 ・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 8	報告書の書き方と提出方法/実習報告書作成の意味
11	事前指導 9	実習直前指導
12	事後指導 1	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
13	事後指導 2	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
14	事後指導 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告
15	事後指導 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 I 《施設実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	古川 督、足立 法子、黒澤 祐介、大西 輝彦、中野 一人			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で習得した知識・技術を再確認する。実習前には、実習課題を設定し、目的を明らかにして実習にのぞみ、実習後は実習の自己評価、他者評価をもとにして実習報告書を作成する。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社。  
そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

○実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。 ○プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 ○実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し、習得できる。 ○実習終了後は、実習全体を振り返り、「実習報告書」を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出します。各自それに従って自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）  
事後指導：報告書の作成（50%）  
実習計画書及び報告書について内容・改善点などの説明・解説を行う。

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習 I」（施設）の内容説明、評価基準・方法、使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全・疾病予防
2	実習施設の選定	・実習ノートの配布と内容説明 ・実習計画書の作成について ・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 1	視聴覚教材による学習 1
4	事前指導 2	視聴覚教材による学習 2
5	事前指導 3	書籍 専門雑誌による学習
6	事前指導 4	実習施設の特徴、具体的実習内容についての学習、実習計画書の書き方と提出方法
7	事前指導 5	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
8	事前指導 6	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習日誌の書き方・記録について
9	事前指導 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）、オリエンテーションの意義と諸注意 ・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 8	報告書の書き方と提出方法/実習報告書作成の意味/
11	事前指導 9	実習直前指導
12	事後指導 1	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
13	事後指導 2	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
14	事後指導 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告
15	事後指導 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告

《学科教育科目》

科目名	児童心理学	科目ナンバリング	C3022S◆○037
担当者氏名	土井 裕貴		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力</li> <li>◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

幼児期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どのように発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。  
また、養護系の児童福祉施設で生活する子どもたちが抱えやすい諸問題について理解し、心理的アプローチについて理解する。

《授業の到達目標》

- 子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになること。
- 子どもの発達にとって、大人をはじめとする周囲の環境とのかかわりがなぜ重要なのかを理解できること。
- 特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶこと。

《成績評価の方法》

15回目に行う試験の評価70%  
授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

「はじめて学ぶ乳幼児の心理—こころの育ちと発達の支援」 桜井茂男（編） 有斐閣 2006

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献などを自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めてもらいたい。  
また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。  
質の高い保育者になることを志す学生の受講を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童心理学の概要 子どもの発達の特徴	児童心理学の概要について理解する。また、児童心理学を学ぶ意義について、子ども時代の特徴を中心に理解を深める。
2	大脳生理の基本事項/ 感覚・知覚・認知	中枢神経系の発達や大脳機能の局在など大脳生理の基礎事項、また、感覚・知覚・認知の概要について理解する。
3	運動機能の発達	乳幼児期の運動の発達について理解を深める。運動面に遅れのある子どもへの支援についても考える。
4	情動の発達	乳幼児期の常道の発達について理解を深める。情動面に課題のある子どもへの支援についても考える。愛着とは何か。親子間の愛着形成の重要性について理解を深める。
5	社会性の発達	乳幼児期の社会性の発達、特に愛着について理解を深める。遊びとは何か。遊びの発達を通して、乳幼児の社会性や認知の発達について理解を深める。
6	言語の発達	言語とは何か。内言語と外言語のそれぞれの機能について理解を深め、言語の持つ象徴性について理解する。
7	認知・思考の発達	ピアジェの認知発達理論について学び、認知思考の発達過程について理解を深める。
8	自我の発達	自己統制や自己実現、動機づけの発達について理解を深める。
9	人格の発達	養育態度と人格の発達との関連性について理解を深める。
10	知能と知能検査	知能の概要と知能検査の概要について知り、その活用する方法について理解を深める。
11	発達障がい ①発達障がいの概要	自閉症スペクトラム、ADHD、学習障がいなどの発達障がいの概要を理解する。
12	発達障がい ②発達障がい児への支援	発達障がいのある子どもへの基本的な支援についても考える。また、保護者に対する対応のあり方についても学ぶ。
13	特別な支援が必要な子ども ①問題の概要	外国籍の子どもの問題、社会的貧困、家庭の養育の不良、児童虐待など子どもをめぐる諸問題の概要を理解し、その支援についても考える。
14	特別な支援が必要な子ども ②支援の方法	様々な問題を抱えることにも対する基本的な支援の方法について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	C3022S-〇039
担当者氏名	原 志津		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

臨床心理学は「意味」を考える心理学である。人のこころの研究の創始者であるフロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験を重視した。それ以降の研究者たちは、もっと小さな乳幼児期の母子関係に焦点をあて「関係性」の研究をすすめた。この授業ではこころの研究の歴史を辿り人と人が関わることを意味を学んでほしい。

《テキスト》

『保育・教育に生きる臨床心理学』  
 松島恭子監修・篠田美紀編著  
 光生館 税別2200円

《参考図書》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本  
 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
- ・乳幼児期の子どもこころの発達について知る。
- ・子どもの関係性の発達理論を知り、関わりに活かす。
- ・対人関係上の問題を呈する人々への理解と自己理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。  
 こころを理解するのに役立つ参考文献一覧を授業初回に配布するので、できるだけ多くの本を手にとって、子どもとかかわる現場にでるまでに読んでおいてください。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%  
 授業内容の理解70%（まとめ①②③）  
 まとめ①②についてはコメントをつけて返却  
 まとめ③については全体的に講評を行う

《備考》

集中講義で実施する。第5回・第10回・第15回の授業でその日学んだ学習内容のまとめレポートを作成する。配布した資料と授業のポイントを各自ノートにまとめておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のすすめ方、臨床心理学の基本的な考え方について知る
2	こころについての探求	フロイトの発見したことを知る
3	精神分析①	フロイトの精神分析について知る
4	精神分析②	フロイトの精神分析の用語を学ぶ
5	まとめ①	第4回までの授業のまとめ（筆記試験）
6	こころの世界の研究①	乳幼児のこころの世界①・・・メラニー・クラインの研究を知る
7	こころの世界の研究②	乳幼児のこころの世界②・・・マーガレット・マラーの研究を知る
8	こころの世界の研究③	乳幼児のこころの世界③・・・ウィニコットの研究を知る
9	こころの世界の研究④	乳幼児のこころの世界④・・・親子関係観察ビデオから学ぶ
10	まとめ②	第9回までのまとめ（筆記試験）
11	心理療法について①	ユングの心理学について知る
12	心理療法について②	箱庭療法を知る
13	心理療法について③	来談者中心療法・・・ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ
14	カウンセリングのプロセスについて	体験過程とフォーカシングについて・・・セルフカウンセリングを知る
15	まとめ③	第14回までのまとめ（筆記試験）

《学科教育科目》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	C3022SG G041
担当者氏名	春 豊子		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

学生がめざす保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構築する。

《授業の到達目標》

- 教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
- 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
- 保育者像を形成することの意義を理解する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 20%
- (2) レポート課題の提出物 30%（提出遅れは減点）
- (3) 筆記試験 50%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などのガイダンス。
2	保育者をめざす	何故、保育者をめざしたかを問い直し、各自の努力目標を具現化することにより、学びを深める。
3	保育職とは	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について学ぶ。
4	保育者の一日	子どもも保育者も主体的に生きる保育の創造について、意見交流を行う。 （環境構成・生活のしかた・子ども同士を繋ぐ）
5	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。（視聴覚教材）
7	保育者の安全危機管理①	園内外の安全確保について学ぶ。
8	保育者の安全危機管理②	災害等に対する備えについて深く学ぶ。
9	法と保育者①	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者②	保育者の研修は、職務遂行のため、保育者の権利と位置付けられていることを理解する。
11	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
12	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことを基に、子どもと親、園、社会を繋ぐ保育者に求められる役割について論じる
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果をまとめる。

《テキスト》

改訂保育者論 [第3版] 民秋 言 編著 建帛社

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省  
 『保育所保育指針開設』 厚生労働省  
 『認定こども園教育・保育要領解説』  
 その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておく。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

《備考》

- ・幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておく。
- ・教科書は必ず持参する。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康	科目ナンバリング	C3021S◆●044
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

1. 乳幼児期は人間の生涯にわたって必要となる健康な心身を培う最も大切な時期であり、発達過程をたどりながら「健康な心身」の概念を形成し、その重要性を学ぶ。
2. 保育内容・健康の視点から乳幼児の健康的な発達と園生活の関連を学び、遊びや生活の援助方法を学ぶ。
3. 健康を阻害する様々な要因を事例より学び、「命を守る保育」について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・「健康」の概念を身につけ、乳幼児の心身の健康の重要性について説明することができる。
- ・保育内容・健康の目的と内容を理解し、生活習慣の自立や遊びとの関係について説明し、また実践することができるようになる。
- ・事例などをおし、配慮の行き届いた安全環境を作り、家庭・地域を含め、命を守る保育に向かえるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60％）、課題レポート（20％）、積極性・集中度・調和（20％）

※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

『保育内容・健康』近藤充夫編著 建帛社  
『保育所保育指針』

《参考図書》

『事例で学ぶ保育内容・健康』ひかりのくに  
『発達がわかれば子どもが見えてくる』ぎょうせい  
『保育内容・健康』ミネルヴァ  
『幼児期-子どもは世界をどうつかむか』岡本夏木著 岩波新書  
『見直そう子育て たて直そう生活リズム』エイデル研究所

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目をおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・小型遊具を作るので指定した回に必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・健康の定義について
2	保育内容・健康の「ねらい」及び「内容」	・保育所保育指針「健康」の領域 ・ねらい・内容・内容の取り扱い
3	子どもの体と健康	①体格と生理機能 0歳～5歳の発達過程
4	子どもの体と健康	②運動能力の発達 発達を促す遊び 実技「小集団遊び」
5	子どもの体と健康	③基本的な生活習慣の形成 発達との関係、生活習慣と動作
6	子どもの心と健康	①情緒の発達と運動とスキンシップ遊びの実践 ②社会性の発達と運動と群れ遊びの実践
7	子どもの心と健康	③パーソナリティの発達と運動 ④知的能力の発達と運動
8	子どもの心と健康	⑤子どもの健康をめぐる問題 健康被害の事例、不適切なかかわりの事例
9	子どもの心と健康	⑥食育について 食の大切さ、人とのかかわり、身近な栽培
10	乳幼児の遊びの発達と健康	・発達の視点から見る遊具 大型遊具と小型遊具の特徴と遊び
11	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の製作 実技「お手玉」
12	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の製作 実技「お手玉」
13	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の遊びの実践
14	安全保育について	①乳幼児の安全管理 ②安全教育のねらい ③安全教育の指導
15	学習のまとめと理解度の確認	筆記試験

科目名	保育内容・人間関係		科目ナンバリング	C3022S◆●045
担当者氏名	小林 孝子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル			

《授業の概要》

幼児期の人間関係は、年齢及び成長発達により培われる。良い人間関係は、将来の人間形成の基礎となり、そこに保育者は重要な役割を担うのである。様々な幼児の姿、活動から幼児の行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけるそのためには自分自身が豊かな心情、感性を持つ。また常に考える態度で臨み、知識、技能が身に付くようにし、保育の方法や実践力を習得する。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要領の解説を熟読し理解し知識とする。乳幼児期の成長発達と心情の理解をする。様々な子どもの姿、行動の事例から、保育者としてのことばがけ、支援、援助を学ぶ。積極的な関心と柔軟な心を持ち、乳幼児の良き支援者になる。具体的な事例、演習問題から、丁寧な対応や気持ちのくみ取りができるようになる。事例から色々な場面を設定し考えを明確にする。プロ意識を持ち、保護者対応もできる。

《成績評価の方法》

事例、演習問題への解答 20% 授業態度 10% 筆記試験 70%  
 筆記試験については、授業のまとめと考えや身に付いたことを評価する。資料の持ち込みは不可。  
 ・小テストやレポートにコメントを付して返却する。  
 ・授業の到達目標に対しては、全体の講評を行う。

《テキスト》

「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説書」  
 随時プリント配布

《参考図書》

「保育内容・人間関係」森上史朗・吉村真理子・後藤節美編  
 ミネルヴァ書房  
 「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」文部科学省  
 授業中適宜紹介する。

《授業時間外学習》

復習をし、疑問点を質問できるよう考える。前回の事例、演習問題を発表できるようにする。レポートの提出は必ず期限までにする。新聞で社会情勢を知る。保育、教育の記事、子育てに関する記事を見る。保育雑誌など見る習慣をつけ、保育者としての資質を高める努力をする。子どもの見本となることをいつも意識をする。

《備考》

保育者としての意識で、日頃から、挨拶、言葉使いを丁寧にすることを心掛ける。授業中の携帯電話の使用と飲食は禁止です。私語、授業の妨害は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の進め方領域「人間関係」の本質	保育所指針・幼稚園教育要領の領域人間関係の「ねらい」「内容」を知る乳児の心の育ちと母親（養育者）のかかわりについて学ぶ。0歳児の遊びと心の発達。
2	「ねらい」「内容」と内容の取扱いの理解	「内容の取扱い」を理解し、乳幼児の成長に必要なかかわりの内容を知る。1歳児の成長発達と、人のかかわりの姿から心の発達やかかわりの内容を理解する。
3	乳児の価値観と成長発達の問題	発達の方向性、発達の段階と、己意識を理解し、養育者との愛着関係を説明する。2歳児の成長発達と遊びの中の人のかかわりの姿を学び、社会性の芽生えを知る。DVD視聴
4	幼児の人のかかわり依存の欲求、集団生活	幼児期の友だち関係について、様々な経験を通して集団意識が育つことを知り、過程の大切さを理解する。2歳児の遊びから、周囲の友だちとのかかわり方を知る。
5	家庭、地域の人々のかかわり	人間関係の基礎となる家庭のかかわりと地域の人々とのつながりが、子どもの心の成長にどのような影響があるか学ぶ。成長発達に繋げることの大事さを知る。
6	自立へ向けての経験、体験集団生活の育ち	様々な経験、体験から、立することについて知る2歳児の成長発達の姿から、自立から自律へ向かう姿の理解と基本的生活習慣について説明する。
7	集団の自立と育ち	生活行動の自立と当番活動の意義と幼児の意識の育ちの関係を知る。3歳児の遊びと人のかかわりの育ちを学び、援助の方法を知る。
8	グループの活動と課題をもった遊び	集団遊びから育つことについて知る。子どもが楽しんでする集団遊びを考える。ハプニング、トラブルからその解決方法を子どもの立場、保育者の立場で説明する。
9	年齢による遊びの変化	一人遊び、並行遊び、かかわり遊び、群れ遊びなど、子どもの成長に合わせての遊びから、心の成長発達について知り、その時々の子どもの心を説明ができるようになる。
10	色々なエピソードからの育ち	生活、遊びの中から育つ人のかかわりを考え、様々なエピソード、事例から子どもの心の成長を説明できる。3歳児の人間関係から見た指導計画を知り理解する。DVD視聴
11	クラス活動からの学び	クラス活動を通して、道徳心、規範意識の育成を目指す保育を知り、どのように培っていくかを知る。4歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。
12	保育の実践と視点	目に見えるもの、目に見えないものについて、道徳心、規範意識をどのように培っていくかを知り、説明する。4歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。DVD視聴
13	コミュニケーション	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションがあり、ことばをあまり話さない乳幼児に大切な非言語的コミュニケーションとは何かを理解し学ぶ。
14	保育者の役割と仕事	子どもとの信頼関係を築くには、保育者としての役割をしっかりと理解し、子どもと温かな人間関係を持つ。5歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。DVD視聴
15	学習の振り返りまとめ理解度の確認	授業のまとめと振り返りをして自己評価と理解度の確認をする筆記試験。

科目名	保育内容・環境	科目ナンバリング	C3021S◆●046
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

1. 子どもは周囲の様々な環境に対し、乳幼児の特性である能動性をもって働きかけながら、その相互作用をとおして成長発展を遂げる「育ちのメカニズム」を学習し、環境による保育の重要性を学ぶ。
2. 事例検討をとおし、様々な育児環境を知る。
3. 発達に応じた環境構成に意欲的に取り組み、実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・乳幼児の発達は、適切な環境との相互作用により望ましい方向に導かれていくことを理解し、「環境との相互作用」について説明することができるようになる。
- ・乳幼児の成長発達にふさわしい環境設定や取り組みができるようになる。
- ・保育者は、乳幼児の最も身近な人的環境である認識を持ち、自ら感性を養うことができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、積極性・集中度・調和（20%）

※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

『保育内容『環境』』共著 北大路書房  
『保育所保育指針』

《参考図書》

『保育内容 環境』共著 建帛社  
『環境』共著 チャイルド社  
『保育内容 環境』共著 ミネルヴァ  
『アイディアたっぷり年中行事』ひかりのくに

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目をとおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように、受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・四季折々の自然環境を取り入れるので必要な物を持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・環境の概念
2	保育の基本と保育内容	・保育内容の構造と領域「環境」 ・環境をとおして行う保育
3	乳幼児の発達過程と特徴	・0歳児から5歳児までの発達と特徴 ・発達の順序性と連続性
4	人的環境と子どもの育ち	①子どもと家族のつながり ②子どもと地域社会のつながり
5	人的環境と子どもの育ち	③子どもと友だちのつながり ④子どもと保育者のつながり
6	物的環境と子どもの育ち	①園内の生活環境 ②園内の遊びの環境 実技「土と水」
7	保育内容「環境」と子どもの理解	①好奇心・探究心の芽ばえ 内発的動機づけ 実技「ネイチャーゲーム」
8	保育内容「環境」と子どもの理解	②時間・空間の概念 一日の生活時間の構造
9	保育内容「環境」と子どもの理解	③数量・図形・文字の認識 遊びやかかわりの工夫
10	保育内容「環境」と子どもの理解	④思考力を育む保育 知的発達、創造力の発達
11	自然環境と子どものかかわり	身近な動植物とのかかわり 動物・植物・園外の自然・水・土
12	道徳性の芽ばえ	道徳の概念 道徳を育む保育
13	行事と子どもの育ち	・園内行事と子どものかかわり ・地域の行事と子どものかかわり
14	安全環境と教育	・養護の視点から見る安全環境 ・教育の視点から見る安全環境
15	授業の振り返りと理解度の確認	筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現A	科目ナンバリング	C3022S◆●048
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

身体表現活動が子どもの発育発達にもたらす影響について学ぶ。幼児期に表れる表現の特徴について理解し、子どもにあった表現を使った遊びについて考える。また、自分自身の身体について理解を深め、幅広い表現力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・自分のイメージや気持ちを動きで表現することができる。
- ・他者の動きを受け入れ、真似したり動きで応答したりして動きを共有することを主体的に楽しもうとする。
- ・基本の動きを発展させ発表することができる。
- ・全身を使った表現作品を創作し発表できる。

《授業時間外学習》

- ・体調管理
- ・日ごろから様々なジャンルの音楽に触れる。
- ・絵本や童話を読み、想像力をつける。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢（45%）、実技テスト（20%）、発表（20%）、提出物（15%）  
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加すること。シューズ忘れは欠席と同等の減点になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。
3	基本的なリズムステップの理解	基本ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
4	基本的なリズムステップの発展	基本ステップを組み合わせた複合的ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
5	基本的なリズムステップの発展②	ステップを組み合わせせてひとまとまりの振りを創って踊る。
6	基本ステップのまとめ	基本ステップの体得を確認する。
7	リズム遊び	歌や曲のリズムに合わせて身体を動かす遊びに触れ、動きを発展させる方法を学ぶ。
8	歌を使った表現遊び	歌から全身を使った表現を考える。
9	絵本を使った表現遊び	絵本の言葉に合わせて全身を使った表現を考える。
10	身近な道具を使った表現遊び①	スカーフを使った表現遊びを考える。
11	身近な道具を使った表現遊び②	縄・フラフープを使った表現遊びを考える。
12	影絵遊びとデジタル機器を利用した表現	照明やデジタル機器を使って遊ぶ方法について学ぶ。
13	作品づくり	これまでの表現方法を利用して作品を創作する。
14	作品づくり②	作品の創作。発表会の計画と進行について。
15	発表会	リズムカルに動くこと、作品世界のメッセージ性、効果の使い方など総合的な表現力を確認する。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現B	科目ナンバリング	C3021S◆●049
担当者氏名	井上 朋子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」に示されているねらいや内容を踏まえて、音楽、造形、言語、身体などの表現領域を総合的に学びます。そして、その指導法について習得し、保育現場での実践力へとつなげます。また、諸感覚を通した様々な表現活動を体験する中で、表現することの喜びを味わうとともに、感性を磨き、表現力を向上させることを目的とします。

《授業の到達目標》

- (1) 総合的な表現活動の内容とその指導方法について理解する。
- (2) 幼児の多様な表現に気付き、引き出すことができる感性を磨く。
- (3) 感じたことや思いを意欲的に表すことができる表現力を身に付ける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み25%、提出課題25%  
 実技試験25%、筆記試験25%  
 ※実技試験後には講評を伝えます。また最終試験後には解説を行います。

《テキスト》

『手あそび、体あそび、わらべうたがいっぱい あそびうた大全集200』細田淳子編著、永岡書店、2014

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008  
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館、2008

《授業時間外学習》

授業内で得た知識及び内容は各自復習を行い、教育実習や保育実習の際に活用できるようにしておくこと。特に毎授業で習得した手遊びは、自信をもってできるようにしておくこと。

《備考》

体験による学習を主体としますので、授業への積極的な取り組みを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心をひらく	・オリエンテーション ・表現とは ・ペア・グループによるコミュニケーション活動
2	感覚をひらく①	・サウンドマップづくり ・音、色、形を感じる
3	感覚をひらく②	・じっくり見る、耳を澄ます、イメージを広げる
4	音楽と造形をつなぐ	・音を絵にする、絵を音にする ・図形楽譜づくり
5	子どもの表現発達	・子どもの表現の発達について知る
6	言葉を介して①	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本を用いて
7	言葉を介して②	・音や絵をオノマトペで表す ・オノマトペ絵本をつくる
8	音をつくる①	・様々な素材から音を見つける ・音の出るおもちゃづくり
9	音をつくる②	・楽器づくり ・手作り楽器を用いた表現活動
10	身体を使って	・音に反応して動く ・音楽に合う身体表現を考える
11	「表現」の基本的理解	・幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容について理解する
12	演じる①	・物語を演じる①
13	演じる②	・物語を演じる②
14	演じる③	・グループ発表
15	学習のまとめ	・理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	障害児保育 A	科目ナンバリング	C3021S-●054
担当者氏名	柳田 洋		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心</li> <li>◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感</li> <li>○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力</li> <li>○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識</li> </ul>		

《授業の概要》

障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《テキスト》

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編（全障研出版部）

《参考図書》

『幼児の発達の基礎』加藤直樹・中村隆一編（全障研出版部）  
 『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著（かもがわ出版）  
 『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）  
 その他、授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲のテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》

試験（テキスト・ノート等持ち込み可）。  
 適宜、レポート等の提出を課す。  
 試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《備考》

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶために	障害児保育の現状と課題
2	障害児保育のあゆみ	障害児保育と発達保障の歴史
3	障害児保育の前提	保育者に求められること
4	障害児保育の内容と方法	生活の中で信頼感に支えられ、集団の中で育つ
5	障害児保育の目的	人格そのものの豊かな発達を支え導く
6	子どもの発達の道すじ	見通しある保育をするために
7	障害児の保育計画	あそびを軸に日々の保育計画を築く
8	知的障害①	障害の理解
9	知的障害②	保育上の留意点
10	広汎性発達障害①	LD、ADHD、高機能自閉症などの理解
11	広汎性発達障害②	保育上の留意点
12	自閉症①	障害の理解
13	自閉症②	保育上の留意点
14	医療的ケアの必要な子ども	その理解と保育上の留意点
15	家族と共に保育を築く	保護者への支援と支えあう仲間づくり